

産地活性化総合対策事業（国産花きイノベーション推進事業）に関する事業評価票

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成 年	目標年 平成30年	目標値	達成度合			
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	青森県花き産出額 3,000百万円	1,917百万円	1,833百万円 (H29)	3,000百万円	61% (H29)	・物流の効率化の検討、実証 ・花文化の展示（フラワーアレンジメント等） ・学校、福祉施設等での花育体験	・物流の効率化の検討、実証（県内6JA等） ・花文化の展示 ・花育体験（延べ93回）	花きの品質向上と需要拡大の取組を実施し、花文化の展示や花育体験を通じて体験者の花き購入意欲の向上につながったものの、生産者の高齢化や家族労働力の減少等により作付面積の減少したことにより、成果目標は達成されなかった。 このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27年度	JA八戸花き部会のカンパニユラの販売額の増加	19,600千円	24,770千円	27,250千円	91%	・品質保持のため、輸送段ボールの改善による輸送実証	・品質保持のため、輸送段ボールの改善による輸送実証（JA八戸花き部会のカンパニユラ）	輸送ダンボールの改善をしたことにより、カンパニユラの品質の痛みが少なくなり、かつ運搬作業の労力削減につながった。 H27年からH29年までは目標値を達成したものの、H30年の成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	28年度	JA全農あおもりの花東加工用花きの販売額 3百万円	0	0	3百万円	0%	・県産花き産地の連携による花東加工用花きの流通・販売の実証	・花東加工用花きの流通・販売の実証（JAごしょつがる、JA八戸花き）	下位等級の花きを花東加工し、流通・販売を県内外で実証した結果では、品目や価格設定が重要であることを確認した。現状では、広域連携して加工するための作業労力やコスト面から取組に至っていないため、成果目標は達成されなかった。 このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	29年度	首都圏への出荷に使用するトラック台数の20台削減	692台	643台（49台削減）	672台（20台削減）	245%	・県産花きの流通の効率化のため、共同輸送の実証	・県産花きの流通の効率化のため、県内6JAを対象に共同輸送の実証	成果目標は達成した。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	アレンジメント展示等回数 4回	4回	4回	4回	100%	・市場まつり等でフラワーアレンジメント等の展示	・フラワーショー5回、花き展示2回、アレンジメント展示等4回	成果目標は達成した。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	一世帯当たりの花き購入金額の増加	13,010円	12,214円	14,000円	87%	・市場まつり等でフラワーアレンジメント等の展示、花育体験	・フラワーショー5回、花き展示2回、アレンジメント展示等4回、花育体験（延べ93回）	アレンジメント教室等の体験は花に触れ合う機会を設けることになり、消費者の花き購入意欲向上につながったが、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	学校、福祉施設での花育体験回数 32回	32回	28回	32回	88%	・需要拡大を図るため、フラワーアレンジメント体験等	・花育体験（延べ93回）	H30年は事業計画の実施回数が減少したことから、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	花育体験した保護者の花き購入頻度の増加（購入頻度10%の増加）	—	12%	10%	120%	・親子を対象としたフラワーアレンジメント教室等の実施	・花育体験（延べ93回）	成果目標は達成した。
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	園芸福祉体験を「今後取り組みたい」という施設増加 4施設	3施設	3施設	4施設	75%	・福祉施設での体験実施	・3施設	H30年における福祉施設での体験実施は3施設であったが、実施施設では「今後も取り組みたい」という意向を示しており、取組への意識向上につながったものの、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	盆・彼岸需要期のりんどう出荷量 3,900万本→4,400万本	3,900万本	4,167万本	4,400万本	95%	・物流の効率化検討・実証 ・フラワーコンテスト等の開催、国産花きの情報発信（輸出）、学校・福祉施設等での花育体験推進	・物流の効率化検討・実証 ・フラワーコンテスト等の開催、国産花きの情報発信（輸出）、学校・福祉施設等での花育体験推進	主力品目であるりんどうは、鮮度保持材を用い、出荷を調整する技術の導入を進めた結果、需要量増加につながったが、作付面積の減少が影響し、目標達成には至らなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	輸出の際の国内輸送コスト 15本/10本	20/10本	15/10本	15/10本	100%	・物流の効率化検討・実証	・国内輸送を従来のバケット輸送からダンボール輸送に切り替えた。	成果目標は達成した。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	県産花きの認知度向上（利用についてアンケート回答者の70%以上が評価）	—	アンケート回答者の99%が、りんどうを普段使い（自宅装飾用）に購入したいと回答	利用についてアンケート回答者の70%以上が評価	141%	・フラワーコンテスト等の開催	・イベントの開催（H27）、国体での装飾（H28）	成果目標は達成した。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	日常での花き利用の認知度向上（県産花きを含めた日常での活用についてアンケート回答者の70%以上が評価）	—	県産花きを含めた日常での活用についてアンケート回答者の70%以上が評価	アンケート回答者の75%が「今後も花に触れ合う機会を希望する」と回答	107%	・学校等での花育体験推進	・園児や小学生等を対象に、花と触れ合う機会の創出	成果目標は達成した。

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成 年	目標年 平成30年	目標値	達成度合			
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	・地方卸売市場における花き(切り花本数)の取扱量の増加	21,112千本	23,937千本	24,200千本	87%	・フラワーコンテスト等の開催、学校・福祉施設等での花育体験推進	・「いわてフラワーデー」等の各種イベントや情報発信	各種イベントや情報発信を通じ、県産花きの認知度向上が図られたが、切り花の市場経由率が低下していることにより、取扱量は減少した。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	・県庁所在地における花き(切り花本数)の購入金額の増加	11,174円	10,929円	11,300円	97%	・フラワーコンテスト等の開催、学校・福祉施設等での花育体験推進	・「いわてフラワーデー」等の各種イベントや情報発信	平成29年の購入金額(総務省家計調査)9,632円に対し、平成30年は10,929円と上昇したが、目標達成には至らなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	・輸出する切り花本数の増加(八幡平市)	香港 2.0万本 オランダ 9.0万本	香港 2.0万本 オランダ 17.0万本	香港 2.2万本 オランダ 10.0万本	香港 91% オランダ 170%	・花文化と併せた国産花きの情報発信	・海外でのプロモーション活動等	主力であるオランダ向けの輸出量が、目標値以上に増加した。オランダ向けの増量に優先的に取り組んだため、香港向けの輸出量は現状維持に留まり、目標達成には至らなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	・花育体験後の保護者の購入頻度の増加	—	花育体験後に保護者の17%で購入頻度が増加したと報告	—	117%	・学校等での花育体験推進	・園児や小学生等を対象に、花と触れ合う機会の創出	成果目標は達成した。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～28年度	宮城県産花き生産数量をH24実績より増加(5%)	45,969千本・千鉢	41,843千本・千鉢	48,267千本・千鉢	87%	・検討会議の開催(12回) ・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大	・検討会議の開催(12回) ・フラワーイベントの実施(6回、来場者304千人)、花き品評会の開催(毎年10月、出品点数355点) ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施(延べ31回、参加児童632人) ・花き産地を巡り、収穫体験等を行う親子バスツアーの実施(3回、3地域)	フラワーイベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られた。花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。成果目標の30年産の達成率87%であるが、27年産、28年産は目標99%に達しており一定の成果はあったと考えられる。その後の減少要因については、切り花類、鉢物類の減少が大きく、生産規模の縮小等により目標値に達しなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～29年度	宮城県産花き産出額をH27実績より増加(10%)	3,109,223千円	2,838,464千円	3,420,146千円	83%	・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大	・検討会議の開催(18回) ・フラワーイベントの実施(10回、来場者425千人)、花き品評会の開催(毎年10月、出品点数512点) ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施(延べ48回、参加児童963人) ・花き産地を巡り、収穫体験等を行う親子バスツアーの実施(5回、5地域)	フラワーイベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られた。花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。花壇用苗物類の産出額について増加(107%)したものの、切り花類、鉢物類の減少が大きく、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～29年度	仙台市中央卸売市場における花き取扱金額をH27実績より増加(3%)	9,491,582千円	8,670,639千円	9,776,330千円	89%	・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大	・検討会議の開催(18回) ・フラワーイベントの実施(10回、来場者425千人)、花き品評会の開催(毎年10月、出品点数512点) ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施(延べ48回、参加児童963人) ・花き産地を巡り、収穫体験等を行う親子バスツアーの実施(5回、5地域)	フラワーイベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られた。花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。一世帯当たり切り花購入金額は、全国平均で86%に減少しているのに対し、仙台市では97%と減少幅を抑えることができたものの、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	28～29年度	園芸用トレーのリユース率をH28実績より増加(3%)	58%	75%	60%	125%	・園芸資材リサイクルシステムの検討、実証	・H28実証(6月～12月、検討会議3回) ・検討会開催(H29延べ4回)	成果目標は達成した。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～29年度	開催イベントにおける花き販売金額をH28実績より増加(10%)	1,007,070円	1,932,050円	1,107,777円	174%	・フラワーコンテスト、花文化展示、シンポジウムの開催	・フラワーイベントの実施(延べ10回、来場者延べ425千人)、花き展示(延べ11施設、延べ45回)、フラワーウォークの実施(毎年11月)	成果目標は達成した。

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成 年	目標年 平成30年	目標値	達成度合			
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～29年度	花育体験した児童の保護者のうち、2か月に1回以上、花購入する家庭の割合をH29実績より増加(10%)	42%	46%	46%	100%	・学校、福祉施設等での花育体験推進	・学校、福祉施設での花育体験教室を実施(延べ48回、参加児童963人) ・花き産地を巡り、収穫体験等を行う親子バスツアーの実施(5回、5地域、参加した親子延べ100組)	成果目標は達成した。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	キク類、リンドウ、トルコギキョウ、ユリ類、ダリアの全農あきたの系統販売額の増加	16.8億円	19.5億円	20.5億円	95%	・花き技術研修会の開催、ダリアリレー出荷状況調査等	・花き技術研修会の開催、ダリアリレー出荷状況調査等	ダリアリレー出荷では、夏秋期中心の秋田県と冬春期中心の宮崎県との連携によるリレー出荷が平成29年から開始され、両県の技術交流による高品質ダリアの首都圏出荷につながった。花きの販売額は順調に増加しているものの、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	フラワーショーの入場者数1,000人、コンテストの出品点数15点以上	—	入場者数4,000人 出品点数23点	入場者数1,000人 出品点数15点	入場者数400% 出品点数153%	・フラワーコンテスト等の開催	・フラワーコンテスト等の実施(3回)	成果目標は達成した。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	プレミアムフラワーショップへの消費者参加人数100人、入場者数1,000人	—	参加人数120人 入場者数4,000人	参加人数100人 入場者数1,000人	参加人数120% 入場者数400%	・プレミアムフラワーショップの開催	・プレミアムフラワーショップ等の実施(3回)	成果目標は達成した。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	県産花きの輸出本数の増加	1,188本	2,625本	5,000本	53%	・NAMAHAGEダリア(秋田県オリジナル品種)の輸出可能性調査	・ハワイ、香港向けの輸出試験及びダリアプロモーションの実施	検査のない香港を対象としたことで、生産者を限定することなく輸出に対応することができるようになり、平成28年11月から香港への定期輸出を確立し輸出本数は増加している。一方、ハワイでは、検査が厳しく不合格となる場合もあったことから、生産現場での病害虫防除の徹底も進めてきたが、目標値には達しなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	花育教室の体験人数を延べ150人以上、体験の満足度8割以上	—	体験人数318人 満足度83.6%	体験人数150人 満足度8割以上	体験人数212% 満足度105%	・学校、福祉施設等での花育体験推進	・親子寄せ植え体験、フラワーアレンジメント体験、小学校での一花一葉花育講座の実施(9回)	成果目標は達成した。
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	一世帯当たりの花き購入金額の増加	切り花9,539円 園芸用植物3,349円 園芸用品4,253円	切り花8,467円 園芸用植物2,221円 園芸用品2,470円	切り花9,825円 園芸用植物3,449円 園芸用品4,381円	切り花86% 園芸用植物64% 園芸用品56%	・フラワーコンテスト等の開催、学校等での花育体験推進	・フラワーコンテスト等の開催(3回)、親子寄せ植え体験、フラワーアレンジメント体験、小学校での一花一葉花育講座の実施(9回)	フラワーコンテストやスポーツイベント、花育体験等により児童・保護者を含めた若い世代へ花文化のPRを行うことができたが、若年世帯での仏花を始めとした花き購入の減少等の影響により、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27～29年度	山形県花き産出額 75億円	68億円	72億円(H29)	75億円	96%(H29)	・生産技術向上支援、物流の効率化の検討・実証、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	・花き品評会9回、花育教室19回	平成29年は平成27年に比べて花き産出額が4億円増加したが、目標には至らなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27年度	山形県花き輸出量 12千本	2千本	28千本	12千本	233%	・切り花りんどうの輸出に向けた現地調査	・切り花りんどうの輸出に向け、韓国のバイヤーや生花店にサンプル品に対する評価及び花輸入業者、バイヤーからの要望調査等の実施	成果目標は達成した。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27年度	物流効率化・低コスト化に向けた出荷資材の改良による販売価格の向上 105円/本	95円/本	132円/本	105円/本	126%	・ダリア出荷の輸送途中の積み直しによる花傷みを軽減できる出荷段ボールの試作、実証	・ダリア出荷の輸送途中の積み直しによる花傷みを軽減できる出荷段ボールの試作、実証	成果目標は達成した。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	28年度	輸出対策の切り花の出荷実績 500本	—	700本	500本	140%	・切り花りんどうのアジア圏への輸出に向け、花持ち延長効果の検証と輸出業者による品質評価	・主要害虫の防除に有効な薬剤の選定や出荷前の鮮度保持剤利用による花持ち延長効果の検証等	成果目標は達成した。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	29年度	山形生花地方卸売市場取扱数量の増加	22,000千本	19,820千本(H29)	24,200千本	82%(H29)	・生産技術向上支援、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	・花き品評会3回、花育教室7回	品評会や展示会、花育体験の取組みにより、消費者が花に触れる機会が増え、花育体験の参加者の中には体験後に花の購入頻度が増加した人もいたが、山形生花地方卸売市場における花きの取扱数量は減少傾向にあり、平成29年の時点で目標を達成しなかったため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成 年	目標年 平成30年	目標値	達成度合			
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27～29年度	一世帯当たり切り花年間購入額の増加	11,865円	10,451円	12,500円	84%	・フラワーコンテスト、花文化展示会等の開催、学校等での花育体験	・花き品評会9回、花育教室19回	特定品目での品評会や展示会を開催する等、毎年、フラワーコンテスト・展示会の内容を充実させる等の取組により、消費者が花に触れる機会が増えたものの、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27～28年度	来場者延べ数3,000名	2,000名	12,000名	3,000名	400%	・フラワーコンテスト、花文化展示会等の開催	・花き品評会6回	成果目標は達成した。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	27～28年度	アンケート回収率100%	79.50%	100%	100%	100%	・学校等での花育体験	・花育教室12回	成果目標は達成した。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	29年度	花育を体験した保護者の花き類の購入頻度の現状把握と体験後の購入頻度の増加1回以上	—	0.8回	1回以上	80%	・学校等での花育体験	・花育教室7回	花育体験を通じて、参加者の花に対する興味・関心が高まり、花き購入頻度の増加につながったものの、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	福島県の花き主要品目（りんどう）の出荷数量の3%増加	4,035千本	3,333千本	4,156千本	80%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	花き品評会・鉢花品評会（毎年1回、出品点数977点）、花文化展示会4回、セミナー（毎年1回、参加者242人）、花育教室（83回、3,926人）	高齢化の影響による廃作が進み、作付面積、出荷数量ともに減少し、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	福島県の花き主要品目（りんどう）の販売金額の10%増加	113,421千円	115,604千円	124,764千円	93%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	花き品評会・鉢花品評会（毎年1回、出品点数977点）、花文化展示会4回、セミナー（毎年1回、参加者242人）、花育教室（83回、3,926人）	高齢化の影響による廃作が進み、作付面積、出荷数量ともに減少し、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	福島市における1世帯当たり年間の切花支出金額の1%増加	18,063円	14,588円	18,244円	80%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	花き品評会・鉢花品評会（毎年1回、出品点数977点）、花文化展示会4回、セミナー（毎年1回、参加者242人）、花育教室（83回、3,926人）	品評会や花文化展示会により、花き消費の拡大を図ったこと等により、全国1位の切花支出金額となったものの、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	品評会への出品点数120点	—	309点	120点	258%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催	花き品評会・鉢花品評会（毎年1回、出品点数977点）、花文化展示会4回、セミナー（毎年1回、参加者242人）	成果目標は達成した。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	セミナー等への参加人数80名	—	80名	50名	160%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催	花き品評会・鉢花品評会（毎年1回、出品点数977点）、花文化展示会4回、セミナー（毎年1回、参加者242人）	成果目標は達成した。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	花育参加人数350名	—	2,311名	350名	660%	学校等での花育体験	・花育教室（83回、3,926人）	成果目標は達成した。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	福島市における100世帯当たりの切花購入頻度1%増加	1,139回	1,057回	1,150回	92%	学校等での花育体験	・花育教室（83回、3,926人）	花育体験の追跡アンケートでは、保護者の13%が購入機会が増えたと回答しており、一定の成果はあったと考えられるが、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
秋田県	株式会社みづき	28～29年度	JA秋田みなみ出荷のみづき取扱本数110%	850,650本	1,005,608本	935,715本	107%	パーフェクトコールドチェーンを構築するため、生産地集出荷場及び卸売市場内等の保冷体制・環境及び輸送体制を構築	・集荷までの保冷体制等の構築 ・冬期実証により、関東以西からの輸送体制を構築	成果目標は達成した。
秋田県	株式会社みづき	28～29年度	秋田県産花き輸出目標 1,000本	0本	1,090本	1,000本	109%	パーフェクトコールドチェーンを構築するため、生産地集出荷場及び卸売市場内等の保冷体制・環境及び輸送体制を構築	・シンガポールへの輸送実証	成果目標は達成した。
秋田県	株式会社みづき	28～29年度	コールドチェーン輸送実証（温度上昇幅5度以内）	—	6.6度	5度	76%	パーフェクトコールドチェーンを構築するため、生産地集出荷場及び卸売市場内等の保冷体制・環境及び輸送体制を構築	・輸送ルートにおける温度上昇地点の把握、対策	外気温に比して低温を維持する輸送体制を構築できたが、積み替え時の温度変化の影響を受ける等により、成果目標は達成されなかった。このため、成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
秋田県	株式会社みづき	28～29年度	マニュアルの作成・配布部数500部	—	500部	500部	100%	パーフェクトコールドチェーンを構築するため、生産地集出荷場及び卸売市場内等の保冷体制・環境及び輸送体制を構築	・マニュアルの作成・配布部数500部	成果目標は達成した。